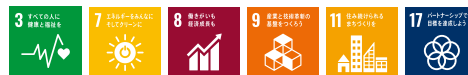


豊かな暮らしをつくる



方針

リコーリースグループは、「医」「職」「住」の3つの領域で付加価値と差別化を図る戦略を推進しています。「医」では医療機器のリースや医療・ヘルスケア分野のファイナンスソリューションなどを通じて、健康寿命の延伸に貢献します。「職」ではBPOを軸に、中小企業の生産性向上を目指したサービスを提供しています。「住」では住宅融資や賃貸事業を展開し、安心・安全な住環境の提供を図ります。これらの分野での事業創出を通じ、社会課題の解決と豊かな未来の実現に寄与することを目指し、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

■ 非財務目標

項目	2024年3月期実績	2026年3月期目標値
医療関連施設 新規開業支援件数	192件	200件

医療・ヘルスケア分野における開業支援の取り組み

当社は、医療・ヘルスケア分野におけるリース・割賦の知見やノウハウから、開業医向け融資「ドクターサポートローン」を提供してきました。また、ファイナンスだけでなく、専用のWebサイト「ドクターサポート」にて開業医に向けた情報提供を行うなど、多様なツールで開業医を支援しています。

当社の開業支援は、開業予定地の周辺人口・競合状況や不動産価格等、さまざまな経済条件を考慮し、開業医のニーズに合わせた提案を行っており、ロケーション調査から事業計画、資金調達、医療機器の調達、許認可業務に至るまで、開業までの道のりをトータルで支

援しています。

2023年度の好事例として、沖縄県北部における脳神経外科の事業承継と開業ニーズをマッチングさせた支援を行いました。医師不足が顕著なエリアへの事業承継と開業を両立させ、地域における医療アクセスの維持を実現しました。

クリニックの開業については、今後さらなる拡大が見込まれています。これまでに積み重ねた事例や知見を蓄積し、高い専門性と情報ネットワークによって、医療アクセスの向上や、地域包括ケアシステムの構築に貢献していきます。



※Webサイト「ドクターサポート」
クリニック開業を検討される医師向けに、診療圏調査や開業物件情報などを提供する無料の会員制サイト

豊かな暮らしをつくる



Welfareすずらの運営を軸に リコーリースグループのシナジーを 発揮し介護事業の拡大と業界の 課題解決を目指す

取締役 専務執行役員
株式会社Welfareすずらん 代表取締役社長
佐野 弘純

Welfareすずらんを通じた介護業界の課題解決の取り組み

中期経営計画（以下、中計）の戦略の軸にある4つのマテリアリティの一つ、「豊かな暮らしをつくる」を定めた背景には、少子高齢化、労働人口の減少、地球環境保全、社会インフラの老朽化、ウェルネスの推進、デジタル化といった社会課題の解決があります。当社グループは「医・職・住」の領域で高付加価値化、差別化戦略を推進しており、生活基盤の充実と豊かで活力ある地域社会づくりに貢献しています。

「医（医療・介護）」では、医療機器のリース・割賦、ドクターサポートローン、小型エコーのレンタルなどの展開により、医療環境の充実と健康寿命の延伸に貢献しています。「職（職場・オフィス）」では、集金代行サービスや介護報酬のファクタリングといったBPOサービスを軸に中小企業等の生産性向上に貢献しています。「住（住居・まちづくり）」では、住宅関連融資、住宅賃貸事業などを通じ、住まいの安心・安全・快適さを提供することで暮らしやすいまちづくりの実現を目指しています。

中計では、事業成長戦略の一つ「事業&サービス付加による多様化」で介護を重点事業分野としており、介護業界に従事する方の業務負荷軽減といった課題解決にも取り組んでいます。

2022年12月には、株式会社Welfareすずらんを子会社化しました。同社は愛知県名古屋を中心に、住宅型有料介護施設8施設のほか、認知症対応型グループホームや障がい者グループホームを運営しており、きめ細か

な対応による高品質なサービス提供が特長です。また、住宅型有料介護施設には介護福祉士、看護師を有する訪問介護ステーションや訪問看護ステーションを併設し、介護保険サービスに加えて医療依存度の高い入居者様のケアを行っています。

今後は3つの施策を推進していきます。1つ目は、不動産事業者や介護機器メーカーとの連携により、最新設備の導入・運用、新商品・サービスの開発を進め、新たな形の施設を展開していきます。

2つ目は、ITツールの導入による効率化を推進し、さらなるサービス品質の向上を目指します。グループ会社のテクノレントと連携した排泄センサーのレンタルや、出資先のエイアイビューライフ株式会社の見守りシステムの導入などを検討しています。ご利用者様へ質の高いサービス提供を行うとともに職員の利便性の向上を図ります。

3つ目は、職員の処遇改善や組織改革を行い、働きがいのある職場環境を整えることで、職員の定着率を向上させ、安定した施設運営を推進していきます。これらに加え、当社グループで蓄積してきた医療・ヘルスケアや介護ファクタリングの知見、住宅・不動産業界のお取引先との連携など、当社グループの経営基盤を融合させることで、さらなるシナジーの発揮と事業成長を実現していきます。

エイアイビューライフへの出資と現状の取り組み

当社は、社会的な課題である介護事業の人手不足や介護従事者の労働負荷、それらに付随する業務効率化に貢献するため、2023年12月にエイアイビューライフ株式会社の株式を取得しました。

エイアイビューライフが提供する「自立支援型介護 見守りロボット A.I.Viewlife」（以下、見守りロボット）の販売においては、現状補助金を使った導入が半分以上を占めていますが、補助金を使わずに導入したいニーズもあります。そこで、リース、レンタル等のファイナンスを活用した導入拡大を目指し、当社が保有する全国にわたる取引基盤や、これまで蓄積したベンダーリースのノウハウ

を活用していく予定です。

また、グループ会社であるWelfareすずらんの一部施設に、見守りロボットを導入しています。見守りロボットは、事後の検知よりも予測に強みを持っているため、入居者の行動および体動データを予め検知し、行動や体調の変化の早期把握が可能かどうかなど、検証を進めていきます。

今後も事業・サービスの共同開発を行い、介護サービスのICT化を支援することで、安心な介護、見える介護を実現していきます。

介護事業者への建物リースの取り組み

急速な高齢化を背景に介護サービスの需要が高まるなか、介護サービスを利用する方々が入居する施設の供給不足が課題として挙げられています。

このような課題に対し、当社は医療・ヘルスケア分野における事業性の評価や、不動産分野において培ったノウハウを活かし、建物リースを提供することで、介護事

業者の資金調達を支援するとともに、介護サービスを必要とする多くの利用者のニーズにえています。

今後はこの取り組みを展開していくことに加え、介護事業者のオペレーションに関する知見を高めていくことで、介護分野への提案の幅を広げ少子高齢社会における豊かな暮らしの実現に貢献していきます。

■ 非財務目標

項目	2024年3月期実績	2026年3月期目標値
集金代行稼働サービス数	17,861サービス	20,000サービス

地域金融機関における集金代行サービスの取り組み



BPO本部 マーケティング課長
高橋 健治

当社では、地域金融機関と連携し、地域金融機関のお客様である中小企業のお困りごとに対し、リースをはじめとする当社の多様な商品・サービスを提供しています。

「お客様の売掛金を口座振替で回収したい」という中小

企業のニーズに対し、地域金融機関によってはサービス提供を行っていない、サービス提供は行っているものの引き落とし金融機関が限られている、あるいは少ない請求件数には対応していないなど、さまざまなケースがあります。そのようななか、幅広い金融機関からの引き落としが可能で、かつ請求件数1件から対応している当社の集金代行サービスを提供することで、地域金融機関のサービスを補完でき、中小企業とその先のお客様双方にとっての利便性向上につながっています。

今後も地域金融機関との提携を拡大し、回収手段の多様化を通じて中小企業の実業生産性向上に貢献していきます。

社会貢献・寄付

豊かな未来積立金

当社グループは、持続可能な地球社会の発展に継続的に貢献することを目的に「豊かな未来積立金」制度を活用し、2023年度は7,849万円の寄付を実施しました。寄付先の一つである公益財団法人東京都農林水産振興財団と東京都による「花粉の少ない森づくり運動」に賛同して2022年度から参加しています。当社グループの森林整備区画「リコーリースグループ豊かな未来への森」において、2022年の植林作業に続いて、2023年11月には社員とその家族33名で補植作業を実施しました。



そのほか、寄付先の一つである、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが主催する「子どもの食 応援ボックス」活動の、梱包ボランティアへ当社社員9名が

参加しました。当該ボランティアは、給食のない長期休暇期間中の子どもたちの食の状況改善を目的として、経済的に困難な状況にある世帯を対象に、食料品セットを中心としたボックスを梱包し、各家庭へ配布する活動です。活動に参加した社員からは、「寄付先の活動を理解できてよかった」「ボランティアに参加していた他社の方と交流できる良い機会となった」などの意見が寄せられました。セーブ・ザ・チルドレンとは、当社が提供する「SDGs参加型リース・レンタル～私たちがつくる未来への懸け橋～」事業においても、寄付先の一つとして選定し、協業しています。今後もボランティア活動や事業を通じて連携を図り、社会課題解決へと貢献していきます。



©Save the Children

発電教室

2023年10月、水戸市立鯉淵小学校と、水戸市鯉淵町の自社太陽光発電所にて「発電教室」を開催しました。2023年度で3回目の開催となり、水戸市立鯉淵小学校の5年生42名が参加されました。

発電教室では当社社員が講師となり、地球温暖化問題やその対策としての再生可能エネルギーの活用についての説明を行いました。次に、SDGsかるたを用いて、SDGs達成のための具体的なアクションを学びました。その後、当社が保有する鯉淵町第一、第二、第三太陽光発

電所へ移動し、発電所内で太陽光パネルやパワーコンディショナーなどの発電設備を見学しました。

当社は、今後も太陽光発電事業をはじめとする再生可能エネルギーへの取り組みを通じ、未来を担う子どもたちに環境保全の大切さを伝えながら、地域住民の皆様にも当社グループの活動をご理解いただけるよう事業展開を行い、マテリアリティである「クリーンな地球環境をつくる」の実現を目指します。

